

番組審議会議事録（第9回、平成29年2月13日開催）

1 開催年月日：平成29年2月13日（月）

2 開催場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）5階 赤城

3 委員出席

委員総数 9名

出席委員数 7名

出席委員の氏名：岡田裕介（東映株式会社 代表取締役グループ会長）、

足立盛二郎（前公益財団法人 日本棋院理事、

元ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長・日本郵政取締役）、

兵頭俊夫（大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

物質構造化学研究所特別教授）、

野田慶人（日本大学 芸術学部 学部長）、

金子光男（公益社団法人日本将棋連盟 学校教育アドバイザー 大学担当

明治大学付属明治高等学校・中学校 前校長）、

小川誠子（囲碁棋士／公益財団法人日本棋院 理事）、

清水市代（将棋女流棋士／公益社団法人日本将棋連盟女流棋士会会長）

欠席委員の氏名：音 好宏（上智大学 文学部 新聞学科 教授）、

中村幸雄（一般財団法人 日本オレンジサポーター 理事長、

元株式会社損害保険ジャパン 代表取締役専務・監査役）

放送事業者側出席者名：岡本光正代表取締役社長、勝股信昭取締役、

驛田雅文業務部部長、遠藤 健業務部課長、上枝史乃

4 議題

- ・棋戦の生放送について
- ・特番について
- ・「囲碁プレミアム」「将棋プレミアム」について
- ・今後の予定について

5 議事の概要

(1) 棋戦の生放送

最近放送した番組の中から、生放送を紹介。

(2) 特番「第25期竜星 一力 遼の素顔」、「一力 遼新竜星 自戦解説」（囲碁）

「第24期銀河 藤井 猛の素顔」、「藤井 猛新銀河 自戦解説」（将棋）

「女流タイトル全制覇 ～謝 依旻のすがお～」(囲碁)

竜星戦、銀河戦優勝者の密着番組と、謝 依旻女流五冠の記念番組を紹介。

(3) 「囲碁プレミアム」「将棋プレミアム」
イベントを特番化したものを中心に紹介。

(4) 今後の予定
「第3回 日中竜星戦」「第5回 電聖戦」を紹介。

6 審議内容

(1) 棋戦の生放送について

- (放送事業者) 「生放送に関しまして放送は長時間やるべきか、あるいは短時間の細切れで良いのかなど、様々なご意見をいただければと思います」
- (兵頭委員) 「直接の答えではないかもしれないが、スピード感が良い。これ以上スピードを出さないで欲しいという意味なのですが、別に急ぐ必要はないのではないかと。視聴者から結構レスポンスがあるわけですよ、それを丁寧に見ながらゆっくりと。今の状態で、満足されている方、結構いると思うんですね、今までになかったものが始まったということで。この状態を囲碁・将棋チャンネルの視聴者も十分楽しんだ方がいいんじゃないかと。これが出来るようになったぞという状態を、という気持ち」
- (足立委員) 「まあ生放送というよりニュース番組的に。例えば、王将戦一斉対局は3局同時放映するという、落ち着いてみるのが出来ない感じがして。結果的にニュース番組的な感じで観るということで、それはそれで一つの今までやれてないことだと思います」
- (兵頭委員) 「オリンピックのフィールド競技を見て、こちらで高跳びやっていて、あちらで何かやっていて、何だかんだ同時にやってる」
- (小川委員) 「生中継賛成です。後から映るのとその時観るのではちょっと違いますし、プロ棋士の間でも感謝しています」
- (野田委員) 「生が好評なのはわかるんだけど、全部は出来ない。それに対して見る人からの反応は？ もっとやれ、とか？ ネットは有料じゃないかっていうクレームも来ている？」
- (放送事業者) 「年齢高い方がやはり多いので、～この後はプレミアムでご覧ください～と誘導はしているのですが、なかなか入り方が分からない方、インターネットのやり方が分からないというお客様がかなり多いですね。生放送はNHKがやらなくなったというのもあってうちに期待されている視聴者がかなり多いです。楽しんでいただけている状況、反響は大きいのですが」
- (野田委員) 「カメラはずっとつけっぱなし？ 最後まで」
- (放送事業者) 「つけっぱなしです。感想戦まで」
- (野田委員) 「うまくそこにインサート出来る様な感じを考えていけば、もう少し喜ぶのかもしれないですね。終わりは分からないけど。せつかく始めと適当な真ん中

あたりを見せる訳だから、最後（終局）があつたらそこに突発で入り込めるような工夫をしたら良いのかもしれない。映像が一つぐらいあるとかね。みんな現実を知りたいと思うから、（対局結果を）後で知るのではなく。そういう工夫をする必要があるかもしれない。難しいと思うけどね、番組の途中でやらないといけな
いと思うので」

- （清水委員）「視聴者の方から、対局の朝の風景とか封じ手の様子が見られるのがすごく嬉しいという話になるのですが、封じ手の開封の様子が立会人が全部画面に被ってしまっていて見られない。せっかく開封シーンがあるのに、背中が映っている。視聴者の方から、観ていて少しイライラするという声がある。あれは将棋連盟の方で何か言ったりしているんでしょうか？」
- （放送事業者）「言われておりません。基本的には対局場の中ではそのままどういう動きをされてもいいという形ではありますので、（その問題は）視聴者の為にお願
いしてみます」

(2) 特番について

- （金子委員）「とても面白いと思いました。これ（竜星戦・銀河戦優勝者の特番）はこれから毎年（製作）されるのですか？」
- （放送事業者）「はい。これから 30 期という記念の期が見えてきましたので、竜星・銀河の特番を製作し、盛り上げていければと考えています」
- （兵頭委員）「本当は面白い人ばかり。趙 治勲先生みたいな方だと思うんですが、これってどなたが見えるか分らないんですよ？ その年その年偶然で結構面白い年もあってよいのでは。やっぱり探されると大変ですよ。自動的に全く別の、棋戦で決まった方のプライベートが見えるという偶然性」
- （小川委員）「棋士がとっても興味をもっている。この人たちを出して欲しいという方がいらっしゃるんですが、よくみんなが会うと必ず出るのが杉内ご夫妻。（杉内雅男九段が）97 歳、奥様が 90 歳。なんでがむしゃらに、どういう生活をして二人は何をしているんだろうと、今すごく興味が。普通にしてるだけでも大変なのに、若い人に勝っているんです。とても惹かれるんですね。いつも何をお食べになっているんでしょう。聞いてみたい」
- （放送事業者）「杉内雅男先生は昨年対局の様子を中継させていただきました。取材の方はアプローチをかけているのですが、なかなか受けて頂けない状況にありまして、諦めずにアプローチします」
- （野田委員）「特別番組は、とにかくファンは素顔を見たいと思うのは当たり前なので、レギュラーにするかしないかという問題だけ。戦いのメインのものは全てレギュラーにしている訳だろうけど、それ以外で面白い人を特別に組むようなことを考えてあげた方が良いのかもしれない、もう少し。レギュラーは枠としてレギ

ユラーで持っていないと、決めておかないとルール作っておかないとなかなか難しいと思うので」

(3) 「囲碁プレミアム」「将棋プレミアム」(イベントの特番化) について

- (放送事業者) 「イベントを見据えてやっていくのでそれを紹介したり、番組化というのは必要かと思っています。大げさに言うと普及活動とは言いませんが、そういう意味を込めて」
- (岡田委員長) 「それは良いこと。それと他のネット等とコラボして、いろんな形で観る人に、囲碁・将棋チャンネルばかりっていう印象を与えて、他の所でも触れてもらってね、チャンスを与えてあげる。後はコラボしてここだけしかやらないっていうよりは全体のことを考えるならばね。そういう意味で経験されていく方が良いと思いますね。すごく良いことはどんどん、どんどん増やされた方が良いでしょうね。」
- (足立委員) 「以前のように、名局の解説とかああいうのももちろん楽しいのですが、生放送とか特番とかイベントとか、そういうものを入れられて、一番囲碁に対する一般の人の魅力っていうんですかね、見た魅力ですね、単にこう囲碁そのものがじゃなくて、囲碁やる人の魅力っていうんですかね、そういうものを出していくすごく必要だと思いますし、これまでやって頂いたことは大変良いのではないかと思いますね」
- (野田委員) 「イベントの反応は？ イベントからこっちに加入している人は結構いますか？」
- (放送事業者) 「ゼロではないですが、かと言ってそんなにバンバンバンバンって程でもないです。やはりイベントはイベントで一つ完結しているので。(お客様は) イベントを単純に楽しんでいらっしゃる」
- (野田委員) 「イベントって意外に若い人が来ていると思うので、お年寄りが入りにくいって部分がある。『プレミアム』ってどうやって入ったらいいのか分からない、というのがあって、そこの開拓もうまくしてあげると良いような気がする。入りたいけれどどうしたらいいのか、という人たちが意外にいるんじゃないかな。画面見ながら入ろうとするのも、若い人ならスイスイ入れるんだろうけど。お年寄りって意外にどうやればいいのか分からないっていうのがあって、入り方に関しては直接電話くださいとか、相談下さいみたいな話を上手くもってあげたほうが良いかもしれない」
- (兵頭委員) 「毎月のプログラムにどういう風に入り方を書くかっていうのが結構大事かもしれない。自分がやろうと思った時にどれくらい情報が得られてスムーズに行けるかっていう。他のネットのリンクっていうのも結構大事で、そこで「囲碁・将棋チャンネルとはなんだ？」と思わせるのはそこですよ」

(4) 今後の予定（「第3回 日中竜星戦」「第5回 電聖戦」）に関して

- （岡田委員長）「(対戦相手となる海外の) 向こうの棋士たちも全然知らない人たちがポンポン出てきて馴染みがない。イベントっていうのは、敵を作らないと、上手いかないですね。だからってあからさまに言うわけにはいかないけれども、我々見てる人たちは日本人を応援するような。また負けたとかなんとかそういう風になればね、いいんじゃないですかね。それはコンピュータに対してもそうですよね。コンピュータに勝てと思っている人は、見てる側にはほとんど少ないと思うんですね。そういう意味では、コンピュータに勝って欲しいという人間の想い、そういうものを上手く汲み取っていくと。だいたいヒール作の方が良いですよ、本当はね。そういうイベントっていうのは。イベント対局というのはそういうもんじゃないでしょうか。普通の対局でどちらかに偏ってやるのは変な話だけどね、それは出来ない話だけど、それぞれ偏っていく一つの見方っていうのは今後必要になっていくんじゃないでしょうか」
- （兵頭委員）「おっしゃる通りだと思いますね。なんとなく囲碁ファンじゃない方たちが、日本の囲碁界は中国韓国の後塵を拝しているらしいってところで止まっているんですね。それをリアルに見せてしまえとおっしゃっているわけで、そこを本当にそうなのかっていうことで関心のレベルが、言わば願っているような関心がどーっと淀んでいると思いますね。少し見せることで関心が惹かれていて、それで日本が勝っていくんですよね？ これから。丁度良い時期だと思うので、ぜひやって欲しいと思います」

(5) その他

- （岡田委員長）「(スマホ疑惑問題に関して) 早く所謂、盗聴・盗撮、コンピュータに関して法令を作るべきです、やはり。早く、ちゃんとした罰則規定も含めて、内規としてちゃんとやらないとそれはやはり、あなた達がやらないと」
- （放送事業者）「そこまではね、日本棋院さん、将棋連盟がやはり……」
- （岡田委員長）「いや、やるんですよ。だから、そこに提言していかないと駄目だと思いますけどね。今か、今かっていうと。もはや耳の中に小さいチップ埋め込んで、聞いたりとか色々なことをね、もう何年か経たないうちに出来ますよ。そうした時にそういうものに対する法律が無いから裁けないっていうね。法律っていうかやっぱり、会社法だ、会社ってみんな決まっているじゃないですか、かなり細かく。決まって無さすぎじゃないですか、この業界はね。将棋連盟も日本棋院も決めてないのが大きな問題なんじゃないですかね」

以上